

二月三日(金曜日)午後三時より

節分念法要

おでかけください

本年の節分会は、二月三日(金曜日)午後三時より、常楽寺本堂で厳修いたします。大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。

厄年表

厄除の生まれ年	
男子	4歳 平成26年生 25歳 平成5年生 42歳 昭和51年生 61歳 昭和32年生
女子	4歳 平成26年生 19歳 平成11年生 33歳 昭和60年生 37歳 昭和56年生 61歳 昭和32年生

厄年は「数え年」で計算します。
厄年は、数え年での年齢が本厄で、その前後、1年づつが、前厄と後厄となります。

やがて「ホーマ」の儀式が中国に伝わると、

古いインドの言葉である「ホーマ」は、中国の発音に当てはまる音を写した当て字「護摩」という二字の漢字で表されるのが一般的になりました。そして「護摩の儀式」は、仏教の勉強のために中国に渡った、弘法大師様に伝えられて、日本に渡りました。

弘法大師様は、真言宗の重要な祈りの作法としての「護摩法要」を日本に伝え広められ、今日のさまざまな「護摩法要」を確立されました。

護摩の儀式でお坊さんは、燃え盛る炎の中に仏様を招き、いろいろなお供物を捧げて「おもてなし」をする「じゆ」によって、たくさんの人々の願いや、願望を聞き届けていただくのです。

また、護摩で焚かれる清らかな炎には、私たちの心を活している煩惱を、焼き尽くす働きがあることも忘れてはなりません。

新年の初護摩法要でも節分会での護摩法要でも、

炎の力を借りての法要を行います。

炎は、私たちの生活を支え暮らしを、豊かにしてきました。

例えば、電気のなかった時代には、

闇夜を照らす灯火となって人々の命を守り、炎が

家族の温かい食事や団欒を支えました。

しかし、炎は時には、取り返しのつかない

事態を引き起こすこともあります。

大昔から人々は、このような燃え盛る炎に

おのすと畏敬の念を抱くとともに、炎に宿る

力を、祈りの儀式に用いるようになってきま

した。

仏教が誕生したインドでは、炎の中へ供物

を捧げる「ホーマ」という儀式が古くから行

われていました。仏教はこの伝統的なインド

の祈りの儀式を取り入れて発展させたのです

真言宗のお坊さんたちは、今なお、インド伝来の祈りの儀式を受け継ぎ、お一人おひとりの希望や、願いを、護摩の法要を通して仏様に届け、解決していただくのです。

皆様も是非、護摩法要に参加されて、護摩の清純な炎をあび、煩惱や穢れのすべてを焼き尽くして、新しい心と体となって、明日へ新たな暮らしを歩まれると、気分一新した日々を送れるのではないでしょう。

節分札 1,000円

節分厄除け護摩札升付 五,000円

升無し 三,000円

FAX 0276-1311-0161

電話 0276-1311-0001

☆ 節分札 厄除け護摩札のご希望は、地区の役員さんか、寺にお申込みください。

